



G. Morik 75

え と 文 森 康 次

素朴な造型美

南仏ニースからバスで一時間程のところにある。設計から装飾一切すべてマチスによってつくられたヴァンスの礼拝堂である。二十世紀最大の記念物といわれるこの礼拝堂は、白い壁、コバルトブルーと白で波形に色分けされた屋根、金色の釣鐘台とその美しい外観を呈していた。内部には「聖母子像」、「聖ドミニック」、「十字架への道」等の壁画が白いタイルに黒一色で描かれており、清澄さをただよわせている。イエローとコバルトブルーの構成からなるステンドグラスを透して明るい光が射しこんで、聖壇や壁画の上に鮮やかな色彩をなげかけていた。

その単純さ、素朴さ、自然さが純粋な美を唱っており、体全身が大きくゆさぶられるのをおぼえた。

(昭和三十年、大経卒・画家)